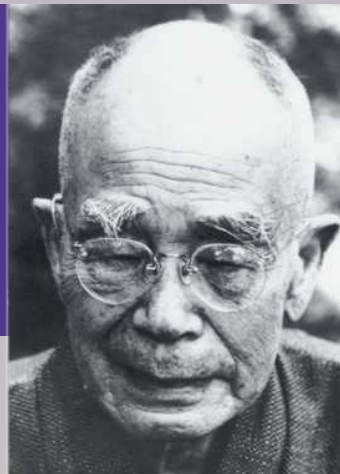


「世界の禅者」鈴木大拙の哲学から学ぶ生き方の知恵

CD
全6巻

禅者のことば

鈴木大拙講演選集



「世界の禅者」鈴木大拙。禅について英語で著した大拙は、日本の禅文化を海外に広めることに成功した。今日に至るまでその禅思想は新鮮さを失わず、世界中で時代を代表する著名人らに影響を与え続けてきた。大拙が生涯をかけて論究した禅思想と浄土思想を、東西にわたる広い視野で語り尽くす貴重な講演集。

第一巻 東洋の母なる思想 〈56分〉(昭和35年)

東洋思想の根底にある母的なものを西洋思想との対比によって鮮やかに浮き彫りにし、ゆるやかで人間性に満ちた生活を説く。

第二巻 禅の考え方 一頌寿記念講演 〈65分〉(昭和35年)

禅宗の考え方「対立する概念を一体」を進めてゆくと、「煩惱即菩提」という大乘仏教の究極に到達する。禅宗の考え方を浄土真宗の考え方に近づけようとする晩年の大拙の姿が垣間見える。

第三巻 念仏とは何か 〈40分〉(昭和39年)

浄土門の「機法一体」とは、衆生が阿弥陀仏を信ずる気持「機」と、阿弥陀仏が衆生を救う力「法」が一体になることだ。浄土宗、浄土真宗の教えの核心を説く。

第四巻 キリスト教と仏教 〈55分〉(昭和39年)

キリスト教は「父」の宗教、仏教は「母」の宗教であるという。キリスト教では「罪」というが、仏教ではその概念がなく、仏の「慈悲」の心で許されてしまう。大拙ならではの比較論。

第五巻 妙好人 〈40分〉(昭和40年)

妙好人とは、浄土真宗の門人が理想とする篤信者のこと。妙好人・浅原才市はカンナくずに浄土真宗の領解を書き続け、後に数十冊のノートが残った。その浅原才市の生涯と浄土真宗の信仰のあり方を語る。

第六巻 対談=鈴木大拙・金子大栄 「浄土信仰をめぐるって」 〈55分〉(昭和41年)

浄土真宗を代表する僧侶、金子大栄師と禅学を代表する大拙との対談。話は浄土信仰をめぐり、「弥陀の本願」のことや「機根」についてなど、興味深い遣り取りが続く。

価格

16,500円

(消費税10%込)

●CD6枚各巻約40~65分 ●32頁解説書

